

今市憲作先生を偲ぶ会

2016年 5月1日



出席者

ご長男今市勝也1964徳島耕次1964平田毅八郎1964花崎二郎 1964内田憲男
1965香月正司 1965中村邦夫 1965前田正三 1965森本 清 1966井上和成
1966**國本悦夫** 1966黒田 亮 1966山中晤郎 1966宅 清光 1966 谷口 邁
1969石井徳章 1969黒川英二郎 1969安友震太郎 1970西山忠志 1972野口進
治 1972堀江正俊1973福島雅文 1974太田邦広 1974平井正文 1975石田清典
1975林 秀典1977野瀬三喜男 1978橋本公秀 1978山崎雅裕 1978吉田義樹
1979梅田善雄 1979北川晃一 1979半井尚 1979藪内秀隆 1980**田中 篤**
1982井上信夫 1983戸部康弘 1983**辻村一郎** 1983三宅 亮 1984小磯裕二
1984佐野健一 1984中本英治 1984安井正明 1985芝本祥孝 1986和田成生
1987河原源太 現職教授 杉山和靖 前職教授 辻本良信

長崎県 千葉県

次第

第I部 シグマホール

- ・黙とう、趣旨説明 辻本良信
- ・同窓会会長挨拶 和田成生
- ・今市先生御略歴・受勲紹介 杉山和靖
- ・ご長男 今市勝也氏 挨拶
- ・思い出話 中村邦夫、香月正司、山崎雅裕

写真撮影 国際棟玄関

第II部 懇親会 国際棟ホワイエ 司会：堀江正俊
(希望があれば随時杉山研究室見学)

閉会： 17:00

国際棟に関する教授会資料

昭和54年3月22日開催の将来計画委員会において「学級教育国際化プログラム実施棟（現在の基礎工学国際棟）」の計画が「**今市教授案**」として提出された。

昭和54年4月23日開催の建物委員会において昭和55年度概算要求として「学級教育国際化プログラム実施棟」（**今市教授案**，約800平方メートル）を要求することが決定された。

昭和56年2月24日，3月10日開催の国際棟運営委員会において管理運営規程等の作成，開所式次第（3月28日開催）等について審議した旨の報告が**今市教授（委員長）**からあった。

国際棟の建設について

植村 知正 (基礎工学部2回生、昭和40年卒業)

国際棟建設の経緯についてほとんど記録が残っていないので何か書くように依頼された。

国際棟を企画提案された今市憲作教授は基礎工学部設立の功労者である植松時雄教授の下で基礎工学部機械工学科の設備やカリキュラムの決定に実質的に関与されたため機械工学科の発展に非常に強い思い入れがあった。基礎工学部は工学部に対して特徴を持つ必要があった。今市教授は昭和36年にスタートした学部の設立20年目の節目に当たって、「教育の国際化」を基礎工学部(機械工学科)の特徴にすべきと考えていた。そのためにまず、「外国人教師招聘制度」を利用して外国の現役教授を招聘して学部生に英語の授業を経験させることにした。講師としては親しくしていたミシガン大学のW.J.Yang教授にお願いして米国のミシガン大学からサバティカル(1年間の休暇制度)の教授を紹介して頂いた。この制度によって昭和55年度(1980年)から4年間に亘って4人の教授を迎えた。講義科目についてはよく覚えていないが、熱伝達、数値計算があったように思う。4人目はミシガン大学からではなかったがその経緯は知らない。

英語教育とは別に小型の国際会議を開くことを考えて**会議場の建設**を提案した。現在の国際棟という名称はこれを踏まえて名付けられたものと思う。当時、学部建物の一階北側にある図書室が手狭で拡張が望まれていた。図書室の隣には機械工学科の製図室があったがこれもまた手狭だった。新しい製図室の建設と国際会議に使える会議室のために「学部教育の国際化」という名目で学部の南にある空き地に**製図室のための新しい建物の建設**を提案したようである。

私は当時今市研究室の助教授であり設計演習を担当していたことから新しい設計製図の講義に使う演習室とついでに国際会議用会議室の企画設計を任された。

訪米して技術の成果を実物／実物大レプリカで展示しているフォードミュージアムやNASAのヒューストン基地など観て**工学教育では寸法と重量の認識が重要**だと感じていた。そこで新しい演習室では、①数百kg程度の重量物を展示できる展示台と搬出入装置、②展示物を観たりにアクセスし易い配置（傾斜の緩い階段教室、幅広の通路）、③広い準備室、④製図や小物をおける広い机、⑤音響効果のよい高い天井などを備えた。〈略〉

会議室とその周りは国際会議に使うことを意識して寸法と設備を決めた。国際会議では（癖のある）外国語が使われることを考慮して、参加者の席毎にマイクを置き、明瞭に声を聞けるように音の吸収がよいように床には厚めの絨毯を敷いた。学会では参加者が講演時間外に発表内容についていろいろと意見交換するのがふつうであるため、講演室外で数人が集まって話ができるように広い廊下やコーナー（ホワイヤー）を作った。〈略〉

招へい教員

1980: Prof. Gene Smith,

Automobile Engineering, University of Michigan

1981: Prof. Edward R. Lady,

Cryogenics, University of Michigan

1982: Prof. Norman R. Scott,

Electrical Engineering & Computer Science, University of Michigan

1983: Prof. Carlos Fernandez-Pello,

Combustion, U.C. Berkley



Scott, Norman R.

Professor Emeritus, Electrical Engineering and
Computer Science

Division: CSE & ECE

Email: norms @ umich.edu

DearYoshi - -

I am so saddened to learn of the passing of Professor Imaichi.

Although he and I were not engaged in the same field of research, **I respected and admired his work. To me, he was a gracious host during my brief time as a visiting professor at Osaka University, and I remember him warmly for that.**

I send my warm regards to you and all his colleagues.

Norman R. Scott

And on a more personal note, Yoshi--thank you for inquiring about me. I'm still doing well, but more slowly and carefully, with the constant vigilant help of my very supportive family. In fact, **on May 15 I will celebrate my 98th birthday!**

Finally, Yoshi fill me in on your own life as a young retiree. And how are your wife and your children?



Carlos Fernandez-Pello
Almy C. Maynard and Agnes Offield Maynard
Endowed Chair
Professor of Mechanical Engineering
University of California, Berkeley

Dear Yoshi

It is very sad!! I have wonderful memories of Professor Imaichi,
he was a gentlemen and a scholar. I always enjoyed listening to
him and just being by him.

Best
Carlos



東京大学名誉教授 大橋秀雄先生

辻本良信様

ターボ機械のサロンを拝見して、今市先生が亡くなったことを知りました。気付きませんでした。急逝だったのですか？享年は？憲作親分の颯爽たる姿が瞼に浮かびます。お会いしなければ、最後の像がリフレッシュされずに続きますね。

良き師に恵まれて幸せでしたね！辻本さん

大橋秀翁

今市憲作名譽教授御略歴

S. 4(1929), 10. 22生

S. 28(1953), 3、大阪大学工学部機械工学科 卒

S. 30(1955), 10、大阪大学工学部大学院研究奨励生、退学

S. 30(1955)、11、大阪大学助手工学部

S. 36(1961), 10、大阪大学助教授基礎工学部

S. 36(1961)、10、基礎工創設

S. 37(1962), 3、工学博士

S. 46(1971), 4、大阪大学教授基礎工学部

S. 56(1981)、3、国際棟開設

S. 60(1985), 3、辞職

S. 60(1985), 4, 大阪大学名譽教授

基礎工学研究科
人事係 山本様

お疲れ様です。総務企画部人事課職員第一係の村田です。

今市先生の叙位・叙勲の件、

- ・閣議決定は、3月15日
- ・位階は、従四位(じゅしい)
- ・勲章は、瑞宝小綬章(ずいほうしょうじゅしょう)

上記でお間違いないです。物件の受け取りについてですが、平成28年春の叙勲等の準備の関係で、内閣府から文科省への伝達自体が遅くなることに伴い、現在、文科省から本学への伝達可能時期が未定(6月上旬予定)となっております。

受け取り可能になり次第、こちらもできるだけ早く受領に伺いたいとは思いますが、時期や状況によりすぐに行けるとは限りませんので、基礎工に位記等をお渡しできるのがいつ頃になるかはわかりません。

受領日が決まりましたら、こちらからご連絡いたしますので、今しばらくお待ちいただければと思います。

謹啓

皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます

故今市憲作儀永眠に際しましてはご多用中のところ
ご懇篤なるご弔慰を賜り厚く御礼申し上げます

その後はからずも閣議決定と天皇陛下への奏上を経て

従四位瑞宝小綬章

拝受の栄に浴し故人はもとより遺族と致しましても誠に
身に余る光栄と感謝致しております

御蔭をもちまして本日満中陰法要を滞りなく相営み

忌明け致しました

早速拝趨の上御礼を申し上げるのが本意のところ
略儀ながら書面をもってご挨拶申し上げます

敬具

平成二十八年四月三日

今市勝也

青春

サムエル・ウルマン

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけでは老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歲月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や狐疑や不安、恐怖、失望、こう言うものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ、精氣ある魂をも芥に帰せしめてしまふ。年は七十であろうと、十六であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。曰く、「驚異への愛慕心」空にいらぬ星、星の輝きにも似たる事物や思想に対する歓迎、事に處する剛毅な挑戦、小兒の如く求めて止まぬ探求心、人生への歡喜と興味。

人は信念と共に若く　疑惑と共に老ゆる。
人は自信と共に若く　恐怖と共に老ゆる。
希望ある限り若く　失望と共に老い朽ちる。
大地より、神より、人より、美と喜悦、勇氣と壯大偉力との靈感を受ける限り人の若さは失われぬ。

これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを固くとどすに至ればこの時にこそ人は全くに老いて神の憐みを乞うる他はなくなる。



素粒子に関するニュースに驚き、
最後まで“青春”を楽しみました。